

**健康な食事研究会**

**◆健康な食事研究会全体**

1, 2 月	
3, 4 月	<p>第1回の研究会を下記の通り開催した。          日時：平成29年4月27日(木) 10:00~12:00          場所：国際生命科学研究機構会議室          出席者：アカデミア:7名、インダストリー：15社、事務局/タスクフォース：4名          研究会内容：          ILSI JAPAN 安川理事長から「研究会設立の背景と目的」「運営組織と活動内容」について説明</p> <p><u>背景と目的</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「健康な食事」の対象は日本人を念頭に、人類共通のものを旨し、毎年の ILSI の総会で世界に向けて発表。</li> <li>・ 「健康な食事」は大きいテーマだが、絞るか絞らないかは議論を待つ。</li> <li>・ この研究会は産業（企業）に対し、すぐに成果が上がるものではないが、一方では活動にファンディングも必要。</li> </ul> <p><u>組織と活動内容</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3つのWG活動内容はWG内での議論によって決定していく。3つのWGは、「健康な食事とはWG」（リーダー；佐々木敏先生）、「実態把握WG」（リーダー；坂田隆先生）、「社会実装WG」（リーダー；桑田有先生）。</li> <li>・ 各WGは独立した活動であるが、相互に関連しており、全体ミーティングで調整しながら進める。</li> <li>・ WGとは別にアドバイザリーボードと事務局を設置する。</li> </ul> <p><u>その他</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農水省のプロジェクト（京大中心の）について、クローズドセミナーを企画する。（中村先生に仲介を依頼）</li> <li>・ JSTへの申請を紹介、5月に申請結果が判明。</li> </ul> <p>次回開催予定：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5月17日を目途に、各々のWGへの参加意向を事務局に連絡</li> <li>・ 5月中に各WGグループミーティングを開催</li> <li>・ 6月、第2回研究会の実施</li> </ul>
5, 6 月	<p>4月27日の第1回の研究会のフォローアップを順次行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ メンバーのWG分けを行った。</li> <li>・ 各WGのリーダーの先生と事務局で、サブリーダーの選任、WGの活動方針、WGのルール等について議論を行った。</li> <li>・ 農水省委託事業の日本食研究についての勉強会の企画を進め、講師3名で8月21日に開催することに決定。</li> <li>・ 研究費の調達について：JSTの未来創造事業への申請は研究会の活動とあまり整合しないと考えられた。今後の方針については要議論。</li> </ul> <p>今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ WG1「健康な食事とは」の会合；7/13</li> <li>・ WG2「実態把握」の会合；7/14</li> <li>・ WG3「社会実装」の会合；7/10</li> </ul> <p>第2回研究会；7/14</p>
7, 8 月	<p>* 第2回研究会（7/14）：</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究会の組織確認；3つのWG、アドバイザリーボード、事務局。会長は宮澤先生。</li> <li>・WGの活動方針 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ WG1；文献検索に特化。検索式は食事（食品・成分、食事パターン・スコア）×健康・病気（生活習慣病、認知症、サルコペニア）。内外の英語の疫学研究論文が対象。考察において日本人の特性を議論。</li> <li>◇ WG2；外食・中食・給食企業の現状取組をインタビューで調査。10月に3社程度試行。</li> <li>◇ WG3；自治体、企業・業界、大学での実装の事例の調査、システマティックレビューによる日本食の有用性検証、狭い領域での介入研究を実行したい。</li> </ul> </li> <li>* 健康な食事研究会 研究セミナー：農水省革新的技術創造促進事業 H26-H28 「世界の健康に貢献する日本食の科学的多面的検証」 8/21に花王(株)すみだ事業場にて開催した。出席者36名。</li> <li>* 研究費の調達について アカデミアメンバーを中心に公的資金獲得の方策について議論継続中。同時にいくつかの財団からの助成の可能性も検討中。</li> <li>* 今後の予定 <ul style="list-style-type: none"> <li>・WG活動継続</li> <li>・研究費調達検討の継続</li> <li>・第3回研究会：10月末～11月半ば予定</li> </ul> </li> </ul>
9, 10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 研究会方向性等確認 宮澤会長（9/13）：研究会活動と科研費申請など打合せ 佐々木WG1リーダー（9/4、10/10、10/19）： 「健康な食事」の概念、活動の新たな方向性など打合せ</li> <li>* 行政との意見交換 消費者庁芳賀課長補佐（厚労省検討会担当）（9/28） 厚労省福田健康局長（10/25）</li> <li>* 研究費調達について 日本財団助成金申請完了</li> <li>* 今後の予定 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回研究会（11/6）</li> <li>・WG活動の継続</li> <li>・研究費調達検討の継続</li> </ul> </li> </ul>
11, 12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究会目標の再確認 研究会全体 日本人の「健康な食事」の概念を把握し、「健康な食事」を実現するために必要な研究や施策に関する提言をし、国民の健康に貢献する。</li> <li>WG1「健康な食事」概念提案 日本人の健康な食事関連論文のレビュー BDHQ／食事摂取基準を活用した食事観察調査で、個別化された「健康な食事」を研究</li> </ul>

	<p><b>WG2/WG3 実証に基づく、実現性のある「健康な食事」の提言</b></p> <p><b>WG2</b> 外食・中食・給食の実態調査をもとに、これらの業界の「健康な食事」についての考え方の把握と「健康な食事」の実現に必要な研究や施策に関する業界要望のまとめ</p> <p><b>WG3</b> 食の視点から、健康経営の現場の目標と実態の乖離を埋める視点・アプローチを開発</p> <p>○ 全体会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第3回全体会議 11月6日</li> </ul> <p style="padding-left: 20px;">WG1の新たな取組について安川理事長から説明。</p> <p style="padding-left: 20px;">「誰でもが自分にふさわしい食事(食べ物)を選べる社会システムの構築」 多面的な意見が提示され、合意形成できず。12月1日: WGリーダー会議開催</p> <p style="padding-left: 20px;">WG1: 佐々木先生、WG2: 坂田先生、WG3: 桑田先生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第4回全体会議 12月22日</li> </ul> <p style="padding-left: 20px;">研究会目標の再確認(上記)</p> <p>○ 今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究会活動報告 2018年2月19日</li> <li>・ 日本財団助成申請の結果判明 2018年3月</li> <li>・ WG活動の継続</li> </ul>
--	--

◆ワーキンググループ1(WG1)科学的エビデンスに基づく日本人にとっての健康な食事の概念構築

1, 2月	
3, 4月	
5, 6月	
7, 8月	7/13に会合開催、活動方針を議論(全体会合の項に記載)、サブリーダー選任
9, 10月	<p>第2回会合(10/10)開催(15名)</p> <p>○ 取組むテーマについて再度議論</p> <p>栄養疫学の基本の習得を目指す(当面の課題)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食事摂取基準(2015版)掲載の資料不備な栄養素に着目し、「どの点が不備か」を引用された論文を教材に学ぶ。</li> <li>・ 佐々木先生提示テーマについて、具体的にシステマティック・レビュー(SR)を行ない、論文の質の評価を学ぶ。</li> </ul> <p>○ WGの新たな方向性について事務局から説明</p>
11, 12月	<p>第3回会合(11/6) ILSI会議室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 佐々木先生による食事摂取基準(2015)のレクチャーとBDHQ(簡易型自記式食事歴法質問票)実施</li> <li>・ 「健康な食事」とは個々人の健康課題を解決するテーラーメイドな食事を指す</li> </ul> <p>第4回会合(12/4) 東京大学佐々木研究室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食事摂取基準(2015)の課題の共有</li> <li>・ BDHQ結果共有と理解促進(WG1活動の有用なツール)</li> </ul>

	<p>今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回会合（2018/1/12） 佐々木研究室 日本食の論文調査から「Japanese food」を読み解く (併せて、論文評価手法を学ぶ)</li> <li>・BDHQ 活用実習と食事観察調査実施のための基礎情報収集</li> </ul>
--	---

◆ワーキンググループ2(WG2) 外食・中食・給食の実態把握

1, 2 月	
3, 4 月	
5, 6 月	
7, 8 月	7/14 に会合開催、WG 内のルール決め、活動方針を議論。外食・中食・給食企業のインタビューを行う前に、研究会内の関係者から聞き取りを行うことに決定。
9, 10 月	<p>外食・中食・給食業界インタビューの事前情報収集のため、研究会内関係者からヒアリングを実施した。</p> <p>9/20：シダック(株)高戸氏 10/6：ロイヤル HD(株)菊地氏他 10/27：セブンイレブンジャパン(株)青山氏</p>
11, 12 月	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業界（外食・中食・給食）情報ラウンドテーブル（9 月、10 月）のまとめを実施（12 月中）</li> <li>・インタビュー／ヒアリング候補及び聞き取り項目案の策定</li> <li>・団体・企業への調査のための事前研究、生活者の実態把握（文献）</li> </ul>

◆ワーキンググループ3(WG3) 健康な食事の伝え方開発と社会実装による効果検証

1, 2 月	
3, 4 月	
5, 6 月	
7, 8 月	<p>7/10 に会合開催、活動方針を議論、また、社会実装の先行事例を共有した。事例は、カゴメ、花王、生活習慣病予防研究センター；岡山明先生。</p> <p>8/21 にも会合開催、活動方針・内容・アウトプット等について意見交換。実装の評価指標の設定に資するべく、行動変容プロセス評価視点を村山先生（新潟県立大）に講演依頼する。</p>
9, 10 月	WG2 のヒアリング（上記）傍聴 桑田先生、園木
11, 12 月	<p>活動予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康経営における取組状況の実情調査</li> <li>・健康経営意識の高い企業検索とヒアリングの実施</li> </ul>